

6・3高松大集会へ!

全学連(斎藤郁真委員長) 書記局通信

2018年5月24日
No.511

Tel 03-3651-4861

mail_cn001@zengakuren.jp

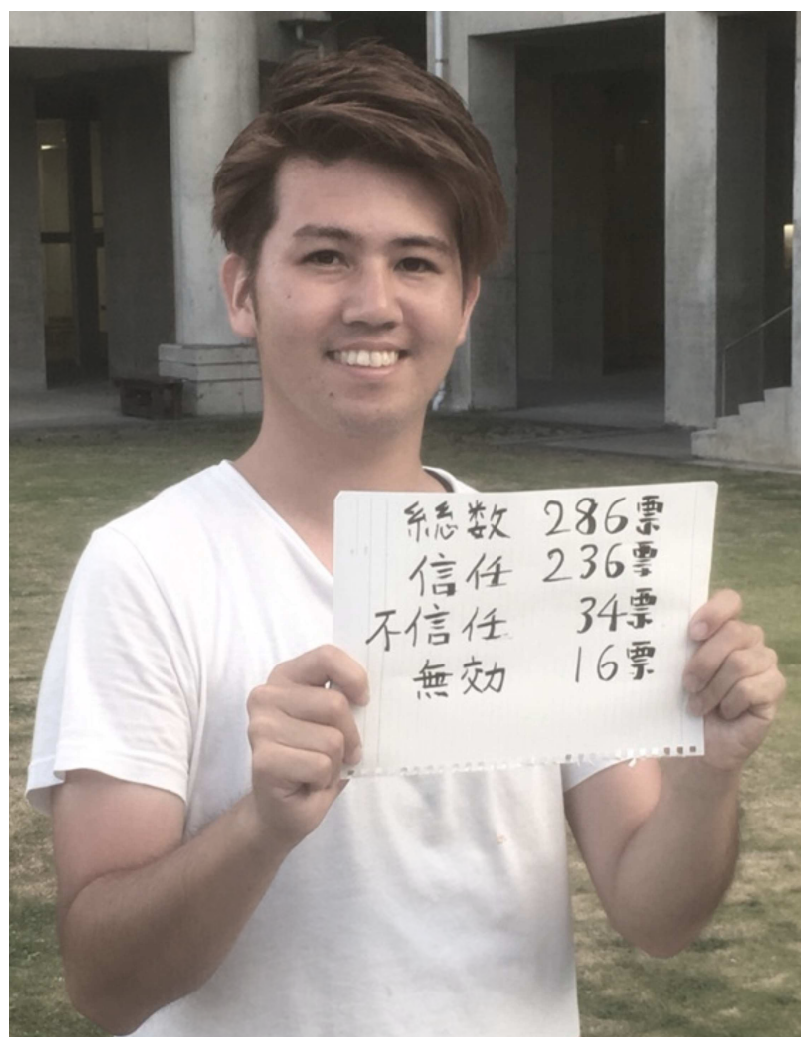
http://www.zengakuren.jp/

沖縄大自治会選挙に圧勝!

5月22日、2018年度沖縄大学学生自治会執行部選挙が最終日を迎え、投開票が行われました。結果は、「投票総数286票、信任票が236票、不信任34票、無効16票」。信任率82.5%で、赤嶺知晃委員長候補(法経学部4年)が信任されました!

今年の投票総数は過去最多です(17年度は133票、16年度は101票、15年度は209票)。去年の選挙より、クラスを回る数や展開する時間が決して増えたわけではありません。しかし、多くの沖大生の仲間が積極的・自主的に次々と投票してくれました。今年1月の要求アンケートを集めて沖大当局に提出した取り組みや、4月新歓での「こどもの貧困」講演会(琉球新報記者の方が講師)が不当に不許可になったことを、全キャンパスに徹底的に暴露・弾劾してきたことで、沖大生の学生自治会への信頼がかつてなく高まっていると実感しました。沖大当局の誹謗中傷や妨害の中、総数2000人の沖大で286人が投票行動を行ったことは大きな意味を持っていると思います。

今年の選挙で、最も沖大当局との力関係や沖大生の支持を感じることができたのは、2014年の自治会再建以来初めて、「常設投票所」を設置したことです(写真参照)。キャンパスの正門入って横の木の下に椅子と机を置き、大きな看板を2枚立て、沖大生と交流するために飲み物なども用意して、いつでも投票できるようにしました。この常設投票所はキャンパス中央で大いに目立ち、注目



を集めました。

重要なのは、一昨年5月に米軍属による女性殺害事件が起こった際には、キャンパスで「安倍たおせ」のノボリを一本立てることすら「やめろ」と弾圧職員を動員して妨害してきた沖大当局は、今回の常設投票所にはいっさい





口出しも手出しもできませんでした。常設投票所のおかげで、自治会選挙は沖大生の一大イベントになりました。

ピザを差し入れしてくれる学生(写真参照)、常設投票所で座っていると「今日も頑張ってください!」と声をかけてくれる学生もいました。やればやるほどキャンパスの雰囲気は良くなっていきます。常設投票所が沖大生との交流の場になる中、それに耐えきれなくなった沖大当局は、全国から選挙支援に來ている学友に対して「ずっとそこにいるなら『建造物侵入』で警察に通報するぞ」と恫喝してきました。しかし、それでも投票を行う沖大生のうねりをとどめることはできません。

最終日(22日)の高揚はすさまじく、昼休みに赤嶺候補がビラをまきながら投票を呼び掛けていると、自分から「投票したいです」という学生が次々とあらわれました。最後まで沖大生の温かい雰囲気の中で、団結と連帯を感じながらやり抜けました。投票期間中に仲地博学長を発見して赤嶺候補が追及したら、何も答えられずに慌てて学長室に逃げ帰ったことも含め、沖大当局との力関係は明確に転換しています。

キャンパスから改憲・戦争をとめ、基地をなくすため、沖大自治会はこれからも全国学生運動の最先頭で闘います! (F)

沖縄闘争初参加者の感想 【東北大学・S】

基地や沖縄戦に関して知っているつもりでした、現地を直接訪れることで様々な経験をして、様々な思いを抱きました。沖縄戦に関する戦跡・資料館をめぐるうちに、戦争という出来事の前に一人ひとりの生活があっけなく破壊されていく現実を、強く認識しました。戦争の悲惨さを改めて認識すると同時に、このような出来事を繰り返

返してはならないという思いを強くしました。

今回はじめてデモというものに参加しました。右翼の妨害に圧倒されながらも、多くの人が集まって行進していく姿に頼もしさを感じ、また自分ひとりの行動がそれに寄与しているのだと思うと、ひとりひとりの力は弱くても団結して行動することで社会をも動かす力を生み出せる、ということを確認できました。

今回の沖縄闘争を通じて、社会問題に関心を寄せながらも何もできない無力さを感じていた自分にとって、ともに考え、行動してくれる人たちがいることは社会変革への期待や自信につなげることができました。

無実で獄中43年 星野文昭さん解放

全国集会

■日時: 2018
6月3日(日)
●12時開場 ●12時30分開会

■会場:
サンポートホール高松
大ホール 〒760-0019 高松市サンポート2-1
TEL:087-825-5000

■講演:
平良 修氏
「沖縄と星野文昭」

■発言: ★家族の訴え
★弁護団の報告 他

■終了後、高松市内をパレード



獄中で描いた星野文昭さんの絵 一辺野古の浜、沖縄の姉妹一



~JR高松駅から徒歩3分
~ことばん高松東道駅から徒歩5分
~高松港から徒歩2分



●星野再審連合会代表。2016年3月から、日本キリスト教団沖縄教区の議長を務めている。1966年、高等弁務官アンガールの就任で「あなたに最後の弁務官となるよう祈ります」とスピーチし、「沖縄の良心」と言われた。星野さん解放にかける思いを、「日本国家権力と沖縄県民の被害は一度もなく、大空の下で、私たちと共に、心の底から、沖縄解放を叫ばなければならないのだ」と語っている。今回、「沖縄と星野文昭」というテーマで講演していただくことになった。



●山形県米沢市生まれ。龍騎の傍で通して星野文昭さんを知り、彼の人間性と生き方に感動して、1986年9月17日に獄中結婚した。毎月、文昭さんがとらわれている徳島刑務所に通い、書信を続けている。全国で開かれる絵画展は、文昭さんが獄中で描く絵と妻子さんの絵で構成され、年間2万人が来場している。また、Fumi Akikoカレンダーが毎年作成され、多くの人の感動を呼んでいる。家族であると同時に、星野再審連合会の共同代表として文昭さんと共に闘い、文昭さんを取り戻すための運動の先頭に立っている。

主催/星野さんをとり戻そう! 全国再審連合会 〒105-0004 東京都港区新橋2-8-16 石田ビル4階
Tel.03-3591-8224 Fax.03-3591-8226 [E-mail]gen@star.nifty.jp [URL]http://hoshino.u-net.ne.jp/
共催/徳島星野文昭さんを救う会 香川・星野さんを取り戻す会 えひめ星野文昭さんを取り戻す会 高知・星野さんを救う会